

読書推進運動


 公益社団法人
読書推進運動協議会
 〒101-0051
 東京都千代田区神田神保町1-32
 出版クラブビル6階
 TEL 03(5244)5270
 FAX 03(5244)5271
 発行人 佐々木 泰
 編集人 片岡 伸子
 定価 60円

No.674

- ★「全国読書グループ調査」ご協力お礼(2頁)
- ★「こどもの読書週間」「読書週間」標語 決定(8頁)

会員の購読料は
会費の中に含まれる



年頭所感

自由な読書体験をすべての人に

公益社団法人 読書推進運動協議会 会長
株式会社 読書推進運動協議会 代表取締役社長

野間省伸

あけましておめでとうござ
います。平素より読書推進運
動協議会の活動に多大なるご
支援、ご協力を賜り、厚くお
礼申しあげます。

ができました。1971年の
賞の創設以来、受賞された個
人・団体はトータルで24を数
えます。

全国の読書推進運動は、お
かげさまで活発な活動を取り
戻すことができました。

4年ぶりに祝賀会も開催さ
せていただき、今回の受賞者
のみならず、読書推進活動の
現場で活躍していらつしやる
数多くのみなさまにお目にか
かることができました。さま
ざまなお話をうかがい、本を
介して人と人が直接対面し、
多くの価値観を共有すること
の素晴らしさと大切さをあら
ためて感じています。

春の「こどもの読書週間」
の行事主催者数は、2020
年に820まで減少しました
が、その後増加に転じ、昨年
1897を数え、以前のレベ
ルに回復いたしました。秋の
「読書週間」についても、全
国から多数の行事報告をいた
だいているところです。

本年の「こどもの読書週間」
(第66回) および「読書週間」
(第78回)の標語を、それぞれ
「ひらいてワクワク めくつて
ドキドキ」「この一行に逢い
きた」に決定いたしました。
春の「こどもの読書週間」

例年「読書週間」の期間中
に贈呈式を行っております
「野間読書推進賞」では、本
賞1団体・1個人、奨励賞1
団体・1個人を表彰すること

のポスターは、昨年に続き注
目の二人組の絵本作家、ザ・
キャンパンバニーによる描
き下ろしをお願いしました。
秋の「読書週間」については
イラストを公募して、ポス
ターを制作いたします。

読書推進運動協議会では現
在、5年に一度の「2023
年度全国読書グループ調査」
を行っています。昨年9月、
各道府県読書推進運動協議会
および都道府県立図書館へ調
査要領・調査票を送付、市町
村への配布を依頼いたしまし
た。多数の調査回答をいただ
いており、集計作業を進めた
うえで、2024年度中に報
告書『2023年度全国読
書グループ総覧』を発行予定
です。全国の読書グループを
「読書会」「文庫」「実演グルー

プ」「研究会」「連絡会」など
の類型別に網羅する冊子で、
資料的価値の高いものです。
ところで、いま社会は着実
にデジタル化しています。学
校教育の場では、教材のデジ
タル化が急速に進み、ネット
環境も進化しました。政府が
推進する「デジタル社会に対
応した読書環境の整備」が推
進されています。出版市場に
目を転じると、電子出版の比
率は引き続き増加傾向で3割
を超えているとのこと。昨
年は読書バリアフリーの観
点から、電子書籍が見直され
た年でもありました。
私はすべての人がそれぞれ
の環境や事情にあわせて、自
分にあつた方法で読書体験を
してほしいと考えています。
本を読み続けることで、人は
深く考え、自分のことばで語
り、社会に対応する力を得る
ことができます。
読書推進運動協議会はこの
からも強力な活動を展開して
まいります。みなさまのいつ
そうのご理解とご助力をお願
い申しあげます。

「2023年度 全国読書グループ調査」 ご協力、ありがとうございました

2024年夏に集計結果中間発表を予定しています

2023年9月25日付けで全国の公共図書館・類縁機関にお願いいたしました、「2023年度全国読書グループ調査」。ありがたいことに、12月4日の締切までに多くのご回答をいただきました。お忙しい中のご協力、まことにありがとうございます。

2023年12月27日現在、ご回答いただきました図書館・類縁機関の数は1899です。一部地域から、スケジュールの都合でこのあと提出するとのお申し出をいただいておりますので、最終的なご回答数は次号以降にてご紹介いたします。また、当会ホームページにて、1月末に回答数および回答館・機関リストを掲載する予定です。

事務局では現在、いただいた調査票のナンバリングをしております。その後、集計作業を進め、今年夏には、全国・都道府県別の読書グループ数など集計結果の中間発表をできるよう、努めます。また、調査報告書となる『2023年度 全国読書グループ総覧』は、2024年度中の刊行を目指しております。

回答期間中、全国の図書館・類縁機関のみならず、多くのお問い合わせをいただきました。今

とくに目立ったお問い合わせは、「グループと連絡が取れず、解散したのか、活動休止なのか、わからない場合はどう答えればよいか」です。前回調査ではほとんどなかったお問い合わせで、事務局では、コロナによる行動制限や図書館の休館・行事中止などで、図書館・類縁機関と読書グループの継続した連絡が途絶えたことも背景にあるのではないかと、推察しています。

また、プライバシー意識の高まりから、「代表者名、住所、年齢などを調査するのがむずかしい」というご意見も多く寄せられました。いずれも、地域の読書活動の中心となっている層の把握、また、複数の図書館・類縁機関で活躍するグループを特定する資料として、有効なデータでありますし、住所は町まで（番地なし）で年齢ともども『グループ総覧』には掲載しないと明示してご理解を求めています。今後は「記入は任意」などと調査票に書きをえることも検討したいと思います。

事務局では、コロナに翻弄されたこの5年間で、読書グループにどのような影響をもたらしたのか、注意深く集計と考察を進めてまいります。

■公益社団法人 読書推進運動協議会 全体事業委員会

本年度の事業をふり返し、 次年度へとつなげる

公益社団法人 読書推進運動協議会の事業である、2024年度春の「第66回 こどもの読書週間」および秋の「第78回 読書週間」の標語選定事業委員会が2023年12月5日(火)に開かれた。標語選定は事前に各事業委員に電子メールによる投票をお願いし、当日その結果をもとに、さらに投票と議論を行った。1400点近くの応募の中から、それぞれ入選作が決定した(8ページを参照)。

続いて2023年度全体事業委員会では、事務局から以下の2023年度事業報告などが行われた。

4月23日～5月12日に行われた「第65回 こどもの読書週間」の標語は「ひらいてとじた笑顔がふえた」。ポスターは、今回からエネルギーあふれる作風で注目の絵本ユニット「ザ・キャビンカンパニー」の描き下ろしで制作、5万5000部を配布。行事主催者数は1897と、以前のレベルに回復した。

10月27日～11月9日の「第77回 読書週間」の標語は「私のペースでしおりは進む」。ポスター5万5500部を配布し、37道府県読書推進運動協議会に行事補助金、各2万円を贈呈。「全国優良読書グループ表彰」は36団体に賞状・副賞を贈呈した。

7月の「敬老の日読書のすすめ」、12月の「若い人に贈る読書のすすめ」リーフレットはそれぞれ13万5000部、18万9000部を配布。

「第53回 野間読書推進賞」は、11月2日に贈呈式と4年ぶりの祝賀会を開催。本賞1団体、1個人、奨励賞1団体、1個人を顕彰した。最後に翌年度の事業とそのスケジュールを確認、閉会した。



2023年の「こどもの読書週間」
「読書週間」ポスター



「第65回 こどもの読書週間」の標語

■「BOOK MEETS NEXT」

京都市内各会場で 多彩なイベントを展開

2023年11月8日(水)・9日(木)の両日、「KYOTO BOOK SUMMIT」が開催された。読書の秋を盛り上げるキャンペーン「本の新しい出会い、始まる。BOOK MEETS NEXT」(10月27日~11月23日)の中心となる大型イベントである。

京都市各地の会場で、さまざまな企画が実施された。佐賀に2軒目の書店を開業して話題の今村翔

吾さんの講演、元ボクシング世界チャンピオンの村田諒太さんと生物学者の福岡伸一さんの対談、池上彰さん、角田光代さん、小泉今日子さんなどもそれぞれのトークイベントに出演、にぎやかなライオンナップに多数の観客を集めた。

読者向けにとどまらず、出版業界関係者向けに、印刷、電子書籍関連、情報システム関連企業などがシステムを展示する「出版DX



オープニングセレモニーで祝辞を述べる野間会長

のテクノロジーを体験した。京セラ美術館のオープニングセレモニーには野間省伸 読書推進

運動協議会会長も出席。「本を愛するみなさんが京都に集結したことは有意義だと思えます」との祝辞を述べた。

■「高橋松之助記念」各賞

「朝の読書」の特色ある 取り組みなどを表彰

文字・活字文化振興法の理念に則り、読書推進と文字・活字文化振興に貢献し、業績を上げた学校および地方自治体・団体・個人を顕彰する「第16回 高橋松之助記念『朝の読書大賞』『文字・活字文化推進大賞』(主催)公益財団法人高橋松之助記念顕彰財団」の贈呈式が、2023年11月6日(月)、東京都千代田区の出版クラブにて行われた。

受賞者は以下のとおり。

■「朝の読書大賞」

- ・茅野市立金沢小学校 (長野県)
- ・「教育の核は読書である」という自治体の強力な方針のもと、「朝の読書」を1999年(平成11年)より継続、図書館教育の意識も高めている。

- ・相良村立相良中学校 (熊本県)
- ・学校司書や国語担当教師を中心に「朝の読書」の継続とともにさ

さまざまな読書活動を行っている。まざままな読書活動を行っている。・学校法人伊藤学園 甲斐清和高等学校 (山梨県)

「朝の読書」継続のための学校側の体制づくりが徹底しており、学外での活動も盛ん。

■「文字・活字文化推進大賞」

- ・社会福祉法人 日本点字図書館 (東京都)

同図書館は、日本盲人図書館として1940年(昭和15年)に創立、日本点字図書館と改称してから75年を迎える。日本最大の視覚障害者用図書館として、読書環境向上に大きく貢献している点が高く評価された。

■絵本図書館ネットワークシンポジウム

絵本で地域を結ぶ さまざまな事例を紹介

2023年12月16日(土)、「第5回 子ども読書活動推進に関する代表者シンポジウム(主催)絵本図書館ネットワーク」が、東京都千代田区の東京国際フォーラム会議室で対面とオンライン中継で開催された。

基調講演はノンフィクション作家 柳田邦男さんの「こどものころの解放、こころの発達」。2023年に柳田さんが参加した、福島県飯館村でのワークショップでの子どもたちの様子から、子どもの遊びどころが満ちた、福島の集まりの高まりが

もたらず効果を紹介した。その他、北海道士別市の親子で参加するスタンプラリー「しべつ絵本ツアー」、佐賀県伊万里市の電話ボックスを活用した「黒川町まちかど絵本箱」、北海道当別町で地元木材を使った絵本箱に絵本をつめてサイドプレイスに寄贈する「こども未来ミエ」北海道の活動を紹介。最後はいせひでこさんの新刊絵本『ピアノ』を読み聞かせし、制作の背景にもふれた。



ワークショップでの子どもたちの様子を紹介する柳田邦男さん

シンポジウムには、森茜さん(日本図書館協会)、設楽敬一さん(全国学校図書館協議会)、奥村傅さん(絵本文化推進協会)、大澤俊信さん(こども未来ミエ)北海道、山本美恵子さん(絵本専門士)と、コーディネーター役の野口武悟さん(専修大学)が参加。それぞれの活動事例のほか、「第五次子ども読書活動の推進に関する基本的な計画に期待すること」「絵本から読み物へのつなぎ」「子どもを本好きにするためには」などのテーマにそって意見交換が行われた。

■IBBYオナーリスト推薦図書決定

世界にすすめたい日本の本と 日本で読んでほしい翻訳図書を紹介

一般社団法人 日本国際児童図書評議会 (JBBY) は、国際児童図書評議会 (IBBY) が隔年で発行する児童書リスト「IBBY オナーリスト」2024年版に推薦する図書3点を選定、発表した。このリストは、文学作品・イラストレーション作品・翻訳作品の3部門で、IBBYに加盟する各国・各地域が選んだそれぞれを代表する児童書を紹介するもの。

たじまゆきひこ作、童心社

○翻訳作品

『見知らぬ友』

宇野和美訳、マルセロ・ピルマ
へール作、福音館書店

また、JBBYは、2022年に日本で出版された翻訳児童書のなかから、日本の子どもたちに読んでもらいたい作品を選んだブックリスト『おすすめ！世界の子どもの本 2023』を発行した。「原作の内容および翻訳がすぐれている」「子どもと本をつなぐ人々たち、保護者、図書館・出版関係者にぜひ紹介したい」「日本の子どもたちが海外の歴史や文化にふれ、読書の楽しみを広げられる」「世界の多様性について理解を深められる」を基準に選書し、表紙はしおたにまみさんの描き下ろし。JBBYホームページでリスト掲載図書のタイトル、および入手方法が確認できる。



「おすすめ!世界の子どもの本 2023」表紙

●JBBYホームページ
<https://jbyy.org/>

■「世界 Kamishibai の日」

世界のことばで紙芝居を楽しみ 交流を深める日に

2023年12月7日(木)、東京都文京区の童心社 KAMISHIBAI HALLで「第6回世界 Kamishibai の日」Tokyo (主催)紙芝居文化の会」が対面とオンライン形式で開催された。

進行は野坂悦子さんと永瀬比奈さんが日本語と英語で担当。まつのりこさんの『みんなでぼん!』、かこことしさんの『いちにのさつちゃん』など日本の紙芝居を通じて世界の平和を希求

居が、日本語のほか、中国語・フランス語・ベトナム語・ペルシア語・英語で演じられた。

また、『おばあさんとマンガス』をモンゴルの絵本作家、バーサン スレン・ポロルマーさんが日本語で内容を説明したあと、脚本を書いたイチチンノロブ・ガンバートルさんがモンゴル語で演じた。

「世界 KAMISHIBAI の日」は、紙芝居を通じて世界の平和を希求

■文部科学省「子供の読書キャンペーン」

中学生に向けて、読書のすすめと メッセージを公開

文部科学省が、「子供の学び応援サイト」に2023年10月より運営している特設ページ「子供の読書キャンペーン」きみに贈りたい1冊」の第2弾が、2023年12月12日より公開されている。

このキャンペーンは、部活動や勉強などのさまざまなことに日々向きあう中学生などが多様な本にふれ、読書に親しめる機会が増え

るよう、教育、科学技術・学術文化、スポーツの各分野で活躍する人々からのおすすめの本とメッセージを紹介するもの。

第2弾では、池透暢さん(車いすラグビー選手)、大塚達宣さん(バレーボール選手)、鈴木亜弥子さん(副日本パラスポーツ協会)、関菜々巳さん(バレーボール選手)、都倉俊一さん(文化庁長官)、福岡雄大さん(バレーダ



「おばあさんとマンガス」を演じるガンバートルさん

したいと、紙芝居文化の会が制定。会場では、ベトナムと日本の紙芝居交流を築いたまついのりこさんの評伝がベトナムで出版されたことも、紹介された。

オンラインの参加者も、会場モニターに登壇。海外からの参加者も多く、インド紙芝居の会は昨年にも続き、自作の紙芝居を披露した。

ンサー)、町田そのこさん(作家)、ヨビノリたくみさん(教育系 YouTuber)、渡部暁斗さん (TEAM JAPAN シンボルアスリート)ノルディック複合競技)が紹介している。

文部科学省では今後、2月に第3弾、4月に第4弾と、4月23日「子ども読書の日」に向けて本キャンペーンを展開していく。



「子供の読書キャンペーン」きみに贈りたい1冊」QRコード

第68回 学校読書調査

中高生の不読率が低下！ 子どもたちと紙・電子書籍の関わり方も調査

今年度設問の特徴

公益社団法人 全国学校図書館協議会（全国SLA）は、毎年実施している「学校読書調査」の第68回となる2023年度調査のまとめを発表しました。

この調査は、児童生徒の読書状況に関する調査として、毎日新聞社と1954年〜2021年度まで共同実施（2020年度は新型コロナウイルス感染症による全国一斉休校などのため、中止）、2022年度より全国SLA単独で行っています。毎年、6月第1週・2週に全国の小学生（4〜6年生）・中学生・高校生を対象に調査しています。

今回の調査項目は、①5月1か月間に読んだ本の冊数、②5月1か月間に読んだ雑誌の冊数③「学校図書館」にどのようなイメージをもっているか（選択回答）、④どんな学校図書館ならもつと利用したくなるか（選択回答）、⑤スマホやタブレットで電子書籍を読んだことがあるか（選択回答）、

⑥紙の本と電子書籍の比較（選択回答）、⑦今の学年になつてから読んだ本のタイトル（3つまで）。本についての項目は紙・電子を問わず（ただし、電子で読んだ冊数を明示）、教科書・学習参考書・マンガ・雑誌をのぞいて回答してもらっています。

今回は、学校図書館に対する関心についてなどの項目があります。また、電子書籍については紙の本と読みやすさに違いがあるかを聞いています。

中高生の「不読率」が低下

この調査で取りあげられることが多いのは、項目①「5月1か月間に読んだ本の冊数」で「1冊も読まなかった」と答えた子ども

の割合、いわゆる「不読率」です。前回不読率は、すべての校種で上昇し、とくに中学生の上昇率の高さが話題となりました。今回は小学生が6.4%↓7.0%と微増したものの、中学生は18.6%↓13.1%、高校生は51.1%↓43.5%と中高生は近年に比べ

て低い数値となっています。図「過去31年分の不読者（0冊回答者）の推移」をご覧ください。

読書推進運動協議会においても、ここ数年、中学校・高校の学校図書館から「読書週間」ポスターの追加送付希望や、「若い人に贈る読書のすすめ」リーフレット送付希望が増加傾向にあります。どちらも、学校図書館だけではなく校内に広く掲示・配布されているようです。司書教諭・学校司書など、みなさんが学校図書館の利用を広く呼びかけている努力がこの結果に結びついているのならば、とてもうれしいことです。

読みやすいのは紙の本

新設された項目⑥「紙の本と電子書籍の比較」では、電子書籍を読んだことのある児童生徒を対象に、紙の本と電子書籍のどちらが(1)内容を理解しやすいか、(2)情報量が豊富なか、(3)文字を目で追いやすいか、(4)読み返ししやすいか、(5)物語や小説が読みやすいか、(6)マンガが読みやすいか、(7)図鑑や辞

典・事典が読みやすいか、を聞いています。

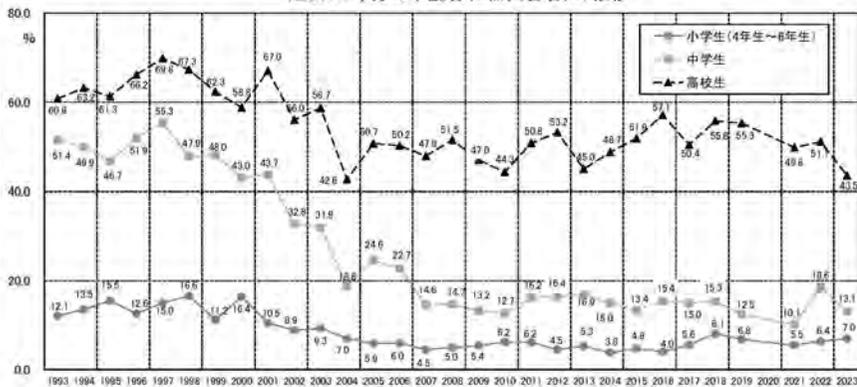
全校種をとおして「電子書籍より紙の本」の割合が多かったのは、(1)(3)(4)(5)(7)、「紙の本より電子書籍」の割合が高かったのは(2)となりました。ただし、

(1)(2)は学年が上がるにつれて「どちらも同じ」の割合が高くなり、高校生では(1)は男女ともに60.3%、(2)は男子54.7%、女子58.1%を占めています。

どの項目も全校種を通して「わからない」と答えた割合はほぼひと桁ですが、(7)だけは小学生男子14.3%、女子24.3%、中学生男子24.8%、女子28.2%、高校生男子21.3%、女子25.4%となりました。調べる行為をWeb上の情報

(Wikipediaなど)検索でとどめ、図鑑・辞典・事典の利用に進んでいないのか、不安になります。すべての調査項目の結果、詳細な分析が掲載されている、「学校図書館」

過去31年分の不読者(0冊回答者)の推移



2023年11月号は、書店での注文、または全国SLAへの直接注文で購入可能です。(編集部) <https://www.j-sla.or.jp/>

●図の典拠：学校読書調査（全国学校図書館協議会）

優良読書グループの歩み (1)

2023年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。
(順不同)

奥中山こひつじ文庫

代表者 菅生 明美

岩手県 戸郡一戸町

〈推薦〉
岩手県読書推進運動協議会

一戸町奥中山は、岩手県北に位置する高原地帯で、酪農と高原野菜農家のほか、障がい福祉関係の学校・事業所が多い地域です。30年ほど前、子育てを終えた家庭より約1800冊の絵本・児童書の寄贈があり、子ども文庫の開設を勧められました。1993年に、地域のキリスト教会の一室を借り、経験がある有志3名が文庫活動を開始しました。

る機会を持っていくことは、地方の小さな文庫に関わる者たちの大きな励みになっています。

開始当初は、子どもたちが文庫に来て本にふれあう場を大切にしていきましたが、通うには保護者などの送迎が必要な地域であったり、学童保育が始まったこともあって、しだいに来る子どもが減少していきました。ならば「こちらが子どもたちの居場所に出かけていけばいい」と、スタッフが文庫の本を持って地域の子ども園・小学校などで読み聞かせを行うなど、活動の場を地域へと広げてきています。家庭環境などで絵本にふれる機会がない、大人から読み聞かせしてもらった経験がないなどで、はじめは興味を示さない子どももいますが、回を重ねるなかで興味を持ち、待ちわびる姿もあり、そこに関われることが活動を続ける原動力となっています。さらに活動の場を近隣地域や障がい者施設、高齢者施設などにも広げていきたい気持ちはあります

が、スタッフの年齢層が高くなってきていることや、次の世代を担ってくれる若い方々は多忙であることなどの悩みもあります。

奥中山は自然環境が豊かな土地柄ということもあり、地域の方々の協力をいただきながら牧草地をフィールドにして、絵本の世界を体験できる「文庫まつり」を企画するなど、子どもたちが体全体で楽しさを感じられるような場も大切にしてきました。かつて子どもだった青年たちが「文庫まつり、楽しかったなあ」と語る姿に、このような場を子ども時代に持つことの大切さをあらためて感じ、地域に根ざした活動を続けていきたいと思っています。



子どもたちの「心のふるさと」文庫をこれからも続けていく

読み聞かせの会 ぼけっと

代表者 西脇 弥生

新潟県新潟市

〈推薦〉
新潟県読書推進運動協議会

読み聞かせの会 ぼけっととは、2003年、新潟市豊野木公民館主催の読み聞かせボランティア講座受講者の有志が、地域の子どもたちに、絵本の読み聞かせを届けようという思いで、絵本が大好きなメンバー7名で発足し、今年20年目になります。

当時は、養成講座を受講したものの、全員が経験不足。子どもたちの前で読み聞かせは、絵本を持つ手がガクガク震え、ドキドキしながらページをめくるほどでした。メンバーも子育て中ということもあり、選書や読み聞かせも小さな子ども同伴で、にぎやかなひとときでした。

講座を受講した公民館で、近隣の保育園児、学童保育の子どもたちに、月1回の絵本の読み聞かせが始まり、図書館での読み聞かせ、読書週間や図書館まつりでのおはなし会と活動も徐々に増え、2012年には、小学校での朝の

子どもたちの興味を引きつけるプログラムを工夫



読み聞かせがスタートしました。

1学年から6学年まで、順番にクラスに入り、おはなしを読んでいるなかで、読み聞かせの日は、学校の玄関で子どもたちと会うと、「ぼけっとさん、今日は何年生の絵本の日?」うちのクラスにはいつ来るの?」なんて、読み聞かせの日を楽しみにしてくれている子どもたちもいて、私たちのモチベーションも上がります。

年1回の昼休みのおはなし会では、大型絵本や紙芝居、エプロンシアターなども取り入れ、手遊びなどにもメンバー手作りの小道具も取り入れ、会場がにぎやかに盛り上がりします。

メンバーも発足当時より入れ替

わりはありましたが、保育士、地域教育コーディネーター、学校ボランティアなど、子どもたちとつねに関わりあっている人が多いので、子どもたちが興味を持っていること、人気のある本などの情報共有をしながら選書したり、メンバーで絵本の原画展を見に行ったり、手遊びやわらべ歌の講習会に参加したり、他グループの読み聞かせ会やストーリーテリングの会を聞かせてもらったりと、それぞれがいろいろなことにアンテナをはって、日々研鑽に努めています。

子どもたちと私たちが大好きな絵本や手渡したいおはなしを一緒に楽しみたい。子どもたちの心の「ほけつと」により絵本が届きますように願いをこめて、絵本が子どもたちの心の栄養になることの手助けができるよう、細く長く、自分たちのできる範囲で、地域に貢献できればと思っています。これからも、子どもたちの笑顔が増やせるように、自分たちも楽しみながら絵本を届けていきたいと思っています。

枕崎市読み聞かせボランティアグループ連絡会

代表者 久木田弘子
鹿児島県枕崎市
鹿児島県読書推進運動協議会
(推薦)

枕崎市内には読み聞かせボランティアが7グループあり、各校の小・中学校や幼稚園、保育園高年齢者施設などで自主的に読み聞かせ活動をしていました。グループの継続や資質の向上を目指すために、それぞれのグループをネットワーク化し、相互に連携する必要があると考え、2009年に、読み聞かせボランティアグループ連絡会を発足しました。図書館を事務局にして年3回、定例会とスキルアップ研修会などを行っています。定例会ではおもに、活動状況報告やお薦めの本の紹介など絵本に関する情報交換をしています。活動をしていくうえでのそれぞれのグループが抱える悩みや問題などを共有し、解決策を考える機会にもなっています。

スキルアップ研修会は、絵本作家や絵本専門士などの専門家を講師に招いて実施しています。今年度は、ファーストブック・自然科



スキルアップへの取り組みを継続

学級の絵本・SDGsをテーマにした絵本などに関する研修のほか、技術面の向上を図るために、ブックトーク研修やアナウンサーを講師に招いた効果的な読み方の研修などを実施しました。ほとんどのメンバーが読み聞かせボランティア歴10〜20年ですが、みな、「スキル向上を目指したい」と、毎回熱心に研修会に参加しています。

この連絡会が、地域で長く活躍できているのは、公立図書館と教育委員会生涯学習課の担当者が定例会に参加し、読み聞かせボランティアの活動内容や実態を情報共有できているからではないかと思っています。さまざまな場面でおたがいに連携・協力することが

できています。

小・中学校と読み聞かせボランティアグループとの調整だけでなく、市の広報紙に活動紹介や会員募集等を載せるなど、官民協同で地域の読書活動に取り組んでいます。コロナ禍で活動の機会は減りましたが、私たち読み聞かせボランティアは、本を好きな気持ちや楽しさなどを対面で直接、声を届けていることに意味があると考えています。

読み聞かせ活動を通じて、本との出会い、人との出会いを大切に、喜んでくれる方々の笑顔を活動の励みにしながら、これからも気長に活動を続け、後々に引き継いでもらえるよう、相互扶助の精神で継続していきたいです。

「第56回優良読書グループ表彰」グループ数変更

『読書推進運動』672号(2023年11月15日発行)の「2023年度第56回全国優良読書グループ表彰」発表時に選考中だった広島県読書推進運動協議会より、2023年12月6日、今回は該当なしとの連絡がありました。よって、今回の表彰グループ数を37より36に、通算を1952から1951に変更いたします。

「こどもの読書週間」行事報告一覧」行事主催者追加と673号訂正・お詫び

『読書推進運動』671号別冊「2023年第65回『こどもの読書週間』行事報告一覧」(2023年10月15日発行)に、島根県江津市より追加の報告がありましたので、ここに追加いたします。

●「こどもの読書週間」行事報告追加

『島根県』
江津市図書館・桜江分館
・「こどもの本のリンクエスト強化月間」図書館に入れてほしい児童書のジャンルを子どもたちより募集
これにともない行事主催者数が

島根県 31↓32
合計 1896↓1897
に変更されます。

また、『読書推進運動』673号(2023年12月15日発行)の1頁目に誤りがありましたので、ここに訂正し、お詫び申し上げます。

【誤】南種子町おはなし子ども会 (群馬県)
【正】南種子町おはなし子ども会 (鹿児島県) (編集部)



標語決定!



2024 第66回

「こどもの読書週間」

ひらいてワクワク めくってドキドキ

2024 第78回

「読書週間」

この一行に逢いにきた

2023年12月5日、公益社団法人読書推進運動協議会の「こどもの読書週間」および「読書週間」標語選定事業委員会（出席19名）が開催され、「2024 第66回 こどもの読書週間」と「2024 第78回 読書週間」の標語が決定しました。

第66回「こどもの読書週間」標語の応募総数は一般・会員各社あわせて721点（選考対象は524点）。第78回「読書週間」標語の応募総数は663点（選考対象は459点）でした。

選定委員会では「こどもの読書週間」標語、「読書週間」標語の順で協議。どちらも、事業委員による数回の投票（第3回投票まではメールで集計）で作品を絞り、推薦の弁などを加えて、最終的に各委員の一票投票によって、入選作品を決定しました。

応募されたみなさん、社内の応募作をとりまとめたいただいた会員各社の担当者みなさん、ありがとうございました。

【第66回 こどもの読書週間 標語】
■入選（図書カード1万円） 1点
ひらいてワクワク

めくってドキドキ

春野 双葉さん（中央社）

■次点（図書カード5千円） 2点

読みたいがいっぱい

越沼 文江さん（トーハン）

ページをひらく未来がひらく
深谷 優香さん（トーハン）
■佳作（図書カード2千円） 23点
本の数だけ夢がある。
夢中になれる世界に会える
きょうはほぐがよんであげるね
ふしぎ、わくわく、だいぼうけん
知りたい、見たい、
いろんなこと!

【第78回 読書週間 標語】
■入選（図書カード1万円） 1点
この一行に逢いにきた
中山 実穂さん（講談社）

■次点（図書カード5千円） 2点
一冊分、心が豊かになりました。
綾部 千恵さん（小学館）

読みたい気持ちごとまらない
田代 恵美さん（中央社）
■佳作（図書カード2千円） 22点
あなたに寄り添う本、あります
まいにち ほん曜日

このひとときが、贅沢時間
読書は心の処方箋
離れたくない 最後の頁
明日の私も、本を開く

ほか

ほか

事務局報告 (12月)

☆1日||「2024若い人に贈る読書のすずめ」リーフレット出来

☆4日||「2023年度全国読書グループ調査」調査締め切り

☆5日||「第66回 こどもの読書週間」第78回 読書週間」標語選定事業委員会 および2023年度 全体事業委員会（出版ラフビル）

☆7日||機関紙「読書推進運動」673号 入稿

☆8日||機関紙「読書推進運動」673号 責了

・8日||とよたかずひこさんと「子ども読書の日ポスター」打ちあわせ

・11日||2023年 第2回「子ども読書推進会議幹事会」案内送信

・12日||「第27回 図書館を使った調べる学習コンクール」個人審査（図書館振興財団）

・14日||造本装頓コンクール運営委員会 出席

・15日||講談社「野間文芸賞」「野間文芸新人賞」「贈児児童文芸賞」「野間出版文化賞」贈呈式出席（帝國ホテル）

・16日||絵本図書館ネットワーク「第5回 子ども読書活動推進に関する代表者シンポジウム」出席

・20日||「子ども読書の日ポスター」入稿

☆22日||2023年 第4回 常務理事会 案内郵送

・26日||「第27回 図書館を使った調べる学習コンクール」最終審査（図書館振興財団）

・28日||「とよたかずひこさんと」子ども読書の日ポスター」打ちあわせ

●編集部 & 事務局の
ひとこと
●新年、あけましておめでと〜ございます。
●就園前は絵本図書館へ行ってもぬいぐるみや階段の上り下りばかりに興味を示した姪も小学校3年生「読書離れ」する子どもも多い年ごろですが、2023年より急に読む量が増え、「〇〇が読みたい」と親へリクエストが増えてきました。
●なので、お母さんは図書館へ行くことを提案。「本がいっぱいあって借りられるよ」「え？どれくらい借りられるの?」「20冊くらいかなあ」「そんなに? 私のおこづかいで借りられる?」「お金はいらないよ」「それ、天国じゃん!」……と、図書館通いはじまったそうです。

●小学校の図書館の貸出上限が2冊のため、それを借りるか絞りきれず、悶々としていた姪は「20冊選び放題、最高!」を満喫中。同じ小学校を数10年前に卒業し、その当時近隣に図書館がなかった私は、「とにかくおもしろい厚い本」を2冊探して借りたものです。

●そんな姪へのクリスマスプレゼントに、10冊ほどの候補から書店で3日間選って、斉藤洋子さんの『ルドルフとイッパイアッテナ』『ルドルフともだちひとりだち』を選びました（なぜか上限2冊……）。ラッピングをといて表紙を見たたん、「わあ、ルドルフ!」と姪がニッコロ。国語の教材で一部を読んだ、全部読みたいと思っていたようです。何冊も選べる楽しさ、悩みに悩んで選んだ本が心にピッタリはまった幸せ、どちらも経験してほしいものです。（伸）